

# 年頭の ごあいさつ



横河電機健康保険組合  
理事長 前村幸司

新年明けましておめでとうございます。

事業主ならびに被保険者の皆さまには、お健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

旧年中は、当健康保険組合の事業運営に格別のご支援とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、日本の国民医療費は毎年1兆円規模で増え続け、平成25年度40.6兆円と歯止めがきかない状況です。そのため平成26年度では保険料率を引き上げた健康保険組合は全体の3割を占め、協会けんぽの平均保険料率10%を超える組合は62組合増の260組合にも上っています。

また、保険料収入に占める高齢者医療への拠出金は43.8%と高水準であり、今後の医療保険制度改革は、公費投入による現役世代の負担軽減に向けた改革の実現が強く望まれています。しかし、平成29年度には後期高齢者支援金の負担方法が全面総報酬割になることが既に決まっており、健康保険組合全体で約1,500億円の負担増となるため非常に厳しい状況が続くことが予想されます。

そのような環境の中、当健康保険組合も平成27年度予算ベースで保険料収入に占める高齢者医療に関わる国への納付金・支援金は46.5%を占め、現役世代の医療給付を含めると96.1%にもなります。そのように非常に厳しい状況ではありますが、当健康保険組合では、特定健診・特定保健指導をはじめ、人間ドック、生活習慣病健診などの疾病予防事業やスポーツクラブ利用補助、コナミスポーツの活動量計を使用したチャレンジウォーキングなどの健康維持・増進への取り組みにも力を入れてきました。また「健康は自己管理が基本」というセルフメディケーションの考えの下に年2回家庭用常備薬の補助斡旋をするなど、さまざまな事業を積極的に展開しております。

今回のけんぽだより冬号でもご報告していますが、平成26年度の特定健診・特定保健指導では、特定健診受診率83.0%、特定保健指導実施率41.4%と共に前年度実績よりも向上しております。今年もこれまで以上に受診環境を整えてまいりますので、皆さまも積極的に受診いただきますようお願いいたします。

また、平成27年度から健康保険組合と事業主が協力して、皆さまの健診データ・レセプトデータを分析・活用することで皆さまの疾病予防、重症化予防、健康増進、ひいては医療費の抑制を目指す「データヘルス計画」がスタートしました。当健康保険組合ではこのデータヘルス計画の一環として、皆さまの健康に対する気づきを促し、生活習慣を見直すことを目的とした保健事業「メタボ予測分析」と「非メタボ(重症化予防)対策」を事業主と連携して実施するための準備をこれまで進めてきました。対象者の方にはその方の生活習慣改善に向けた専門職の的確なアドバイスを記載した「アドバイスシート」を送付しますので、受け取られた方は、今一度ご自身の生活習慣を振り返って頂き、相談が必要な方につきましては専門職の相談を受け付ける窓口を設けましたので遠慮なく相談してください。そして、アドバイスを参考に改善に向けたアクションを取るようになってください。

健康管理は、ご自分の責任において行なうということが最も大切ですが、私たちが健康保険組合として皆さまを積極的にサポートしていく所存でございますので、引き続きご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、皆さま方とご家族の方々の益々のご健勝をお祈り申し上げまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

平成28年 元旦

